

樟彩

～ 岩田学園だより 2026年2月号 ～



目次	p
校長式辞	1
「いじめ防止基本方針」	23
生徒総会	45
APU講座 後期プレゼン大会	6
3年、4-4未来コーチング実施	6
高2APU・立命館コース修学旅行	6
APU・立命館コース卒論発表会	7
部活動結果報告	7
保健室より	7

高校卒業式の式辞より

校長 安藤 英俊

弥生を迎え、少しずつ春めく中、ご来賓及び保護者の皆様、そして在校生に囲まれ、第38回生の卒業式を挙行できますことに感謝申し上げます。

ご来賓の方々におかれましては、ご多忙の中でのご臨席と、平素の本校へのご支援に厚くお礼申し上げます。保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げますとともに、本校の教育活動に対する、これまでのご理解とご協力に感謝申し上げます。ご来賓と保護者の方々に支えられ、本日無事に卒業式を迎える事ができました。改めて、職員を代表してお礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは本校での教育課程を修了し、本日卒業が認められました。先ほど一人一人、卒業証書を受け取る皆さんの晴れやかな姿を見て、喜びに堪えません。

私から卒業生の皆さんにお話するのはこれが最後の機会です。そこで先ず、皆さんに伝えたいことは「主体性」についてです。今年度、私は映画「鬼滅の刃」での主人公の台詞を引用しながら、この「主体性」の重要性を皆さんに話してきました。この「主体性」とは、「自分で課題を見つけ、解決に向けて自分で行動し、結果に責任を持つ」という意味です。そして、これまで皆さんは、あらゆる場面でこの「主体性」を磨いてきました。学校行事、部活動、生徒会活動、各種コンクールや大会、学業、大学受験などの様々な場面で主体性を発揮し、結果を残してきました。その頼もしい姿は、学校全体に活力と自信をもたらし、岩田学園の発展につながりました。

現代社会は「ブーカ」の時代だと言われています。「ブーカ」とは、変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の4つの英単語の頭文

字を取って、「V・U・C・A」、「ブーカ」です。変化が激しく、先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代です。大規模な気候変動、複雑さを増す国際関係、見通しの立たない経済情勢、AIやICT技術の急激な進歩の中にあって、前例にとらわれず、主体的に未来を切り拓く姿勢が求められます。

これから新たな道に進む皆さんですが、どのような道に進もうとも、チャレンジが求められます。

変化の激しい時代にあって、自分で課題を見つけ、解決に向けて自分で行動し、失敗すれば再チャレンジ、クリアすれば次の新たなチャレンジと、停滞することなく、チャレンジを通して自己をアップデートしていくことが求められます。ブーカの時代はチャレンジの連続です。だから、「再チャレンジも、新規チャレンジも、主体的に取り組む」。これがブーカの時代の「S・S・S」です。卒業生の皆さんが、「S・S・S」の精神で、ブーカの時代を、力強く生き抜くことを願っています。そして岩田の卒業生であればそれができると信じています。

最後に、ドイツの哲学者・ニーチェの言葉を紹介します。それは、「憧れに向かって飛ぶ、情熱の矢となれ」と言うものです。「矢」とは弓矢の矢のことです。自分が憧れを抱く目標に向かって、情熱という強い意志を持って飛んでいく、一筋の矢のようになれ、という意味です。

卒業生の皆さんが、これからも、「憧れに向かって飛ぶ、情熱の矢」であり続けることを期待しつつ、皆さんの今後の活躍と健康を祈り、式辞とします。

令和8年3月1日

岩田高等学校 校長 安藤英俊

表彰

【プロジェクト部】
「Oita AI challenge 2026」
Re-grit Partners賞
2-1 高畑晃



「第6回JTB未来探究祭」銀賞

5-2
大塚瑞姫
杉田健翔
伏見遥響



【高2 探究学習】

「第28回全国中学高校WEB コンテスト」
金賞 5-2 池田結衣 石井開
大塚瑞姫 河野寛之 牧野七菜
銀賞 5-2 菊池智瑛 高谷真惟
田邊大地
橋永真帆
藤吉航平



～「いじめ防止基本方針」と対応組織図について(定期配信)～

いじめ防止基本方針

2014年10月1日制定
2018年7月10日改正
2020年4月1日改正
2021年5月20日改正
2023年12月25日改正

1. 目的

近年、いじめは冷やかしやからかいなどのほか、SNSなど情報機器等を介したいじめ、暴力行為に及ぶいじめなど、年々複雑化し、学校だけでは対応が困難な事案も国内で増加している。また、いじめをきっかけに不登校になってしまったり、自らの命を絶とうとしてしまったりするなど、深く傷つき、悩んでいる生徒もいるため、いじめの問題への対応はすべての教育機関において大きな課題である。

そこで、生徒達が意欲を持って充実した学校生活を送れるよういじめ防止に向け、日常の相談体制の整備し、いじめの未然防止を図りながら、いじめの早期発見に取り組むとともに、いじめを認知した場合は適切に且つ速やかに解決するために『岩田学園 いじめ防止基本方針』を定める。

2. 基本理念

いじめは、いじめを受けた生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものである。いじめの防止等の対策は、すべての生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができることをめざして行わなければならない。

3. いじめに対する共通理解

(1) いじめの定義 (いじめ防止対策推進法第2条)

『いじめ』とは、生徒に対して、当該生徒と一定の人的関係にある他の生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む)であって、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。また、けんかであってもしっかりと調査をして対応する。軽微な案件はいじめという言葉を使わず指導するなど、柔軟な対応による対処も可能である。ただし、いじめとして情報共有し、必要に応じて他の事情も勘案して判断するものとする。

(2) いじめに対する基本的な考え方

『いじめは絶対に許されない』、
『いじめはいじめる側が悪い』との認識

『いじめは、どの生徒にも、どの学校においても起こり得る』との認識

『いじめの未然防止は、学校・教職員の最重要課題』との認識

(3) いじめの構造と動機

いじめは、『いじめられる生徒』、『いじめる生徒』だけでなく、『観衆や傍観者』などの周囲の生徒がいる場合が多い。周囲の生徒の捉え方により、抑止作用になったり促進作用になったりする。また、いじめの動機には、嫉妬心・支配欲・愉快犯・同調性・嫌悪感・反発や報復・欲求不満といったものが考えられる。

(4) いじめの態様

- ①冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ②仲間はずれ、集団による無視をされる
- ③軽くぶつかったり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ④ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする
- ⑤金品や物品を要求される
- ⑥金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- ⑦嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ⑧SNS等で、虚偽の情報を流されたり、誹謗中傷をされたりする。

4. いじめの未然防止のための取組み

(1) いじめ対策委員会

いじめを未然に防ぐための指導方法や対策を協議するために、次の機能を担う『いじめ対策委員会』を設置し、必要に応じて開催する。

(構成員)

校長、教頭、寮監長、生徒指導主任、人権学習担当、養護教諭

(開催)

年1回開催し、必要に応じて校長が臨時に召集する。

(活動)

- ・いじめ問題対応の年間計画の作成
- ・校内のいじめの現状把握と指導方針・対策の決定
- ・学校におけるいじめ問題への取組みの点検

(2) 社会適応力を育成する取組み

① 人権教育の推進

本校の教育の方針に基づく日々の教育活動をはじめ、各教科の授業、生徒会活動、ボランティア活動、総合的な学習の時間、ホームルーム活動、人権講演会、学校行事等に人権教育の視点を位置づけ、いのちの大切さを理解すると共に、他者を認めやさしい配慮ができる生徒の育成をする。

② 体験活動の推進

様々な学校行事と本校が従来推進してきたボランティア活動などを通して、生徒同士がお互いをよく知ると共に、相互扶助の心を育成する。

③ 特別活動の充実

集団や社会の一員としてよりよい生

活や人間関係を構築する力を育むことを目的として、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、キャリア教育、その他の学校行事の指導の充実を図る。

研究授業、教員研修、授業評価アンケート等を通して、生徒にとって楽しくてわかる授業の実践に努め、生徒の学ぶ意欲と自己有用感を高める。

(3) 教育相談体制の充実

朝終礼、ホームルーム活動、授業等において、担任および教科担当が生徒の小さな変化にも気づくことができるよう常に細心の注意を払う努力をする。また、定期的にクラス担任は個別面談を行い、人間関係での悩み等を聞き取ると同時に、養護教諭や人権学習担当との連携協力を図り、適切な助言やクラス全体への働きかけができるよう努める。

(4) 生徒への啓発

いじめに関する注意喚起を機会あるごとに行うと同時に、生徒会を中心として生徒自らがいじめは絶対に許されない行為であるという意識を高める活動を推進していく。また、生徒だけではなく保護者にもSNS等インターネット上でいじめに関する現状と対策について外部講師による講演会を実施していじめ防止への理解と協力を求める。

(5) コミュニケーション能力の育成(アサーティブな対応ができる生徒を育てる。)

『相手のことを思いやる大切さ』、『自分の気持ちを伝える大切さ』を認め、それを行動化できる生徒を育成することを人権教育の目標に掲げる。

5. いじめの早期発見のための取組み

(1) 積極的ないじめの認知

朝終礼、ホームルーム活動、授業等で生徒の表情やしぐさをきめ細かく観察すると共に、わずかな変化に対してもいじめの兆候ではないかとの疑いを持ち、教育相談や養護教諭、スクールカウンセラーと連携しながら積極的にいじめを認知するよう努める。

(2) 自己チェックシステムの活用

生徒が定期的に自分の生活を振り返るための自己チェックを行い、それをクラス担任が確認することにより、いじめ等の早期発見に努める。

(3) アンケートの実施

定期的にいじめ等のアンケート調査を行い、問題の早期発見に努める。

(4) 保護者との連携

日頃から担任と保護者との連絡を密に行い、保護者がどんな些細なことでも担任に相談できる環境作りに努める。また、量販店や駅などの関係機関

～「いじめ防止基本方針」と対応組織図について(定期配信)～ つづき

との連携を進め、地域での生徒の様子を把握する。さらに、担任以外にも養護教諭、スクールカウンセラーと相談できる旨を周知し、問題の早期解決を図る。

(5)外部機関との連携

大分中央警察署や大分県こころとからだの相談支援センター等の外部機関と定期的に情報交換する中で、学校外におけるいじめ等問題行動の早期発見に努める。

6. いじめの早期解決に向けた取組み

(1)いじめ調査・サポート委員会

いじめが起きた時、設置し、委員は速やかに実態を調査し、協議を重ね問題解決に向けて計画の立案と適切な対応により、被害生徒を守り通す。一方、加害生徒に対しては教育的配慮の下、毅然とした態度で指導に当たる。

(構成員)

生徒指導主任、人権学習担当、養護教諭、スクールカウンセラー、当該分掌主任、当該学年主任、当該学級担任、当該教科担任、当該部活動顧問等

(活動)

- ・いじめの実態調査
- ・当該いじめ事案の対応方針の決定
- ・当該いじめ事案の対応経過確認および対応方針の修正

(2)被害生徒・加害生徒への迅速な対応

複数の関係者からの情報収集および事実確認をした上で、被害生徒の安全を最優先に考え、加害生徒に対しては毅然とした態度で指導に当たる。教職員への情報共有に関しては、まず授業担当者等の説明を速やかに行い、状況に応じて臨時職員会議を開催して経緯や対応について協議する。

被害生徒に対して、継続的なカウンセリングを行うなどメンタル面のサポートを十分に行い、一日も早く安心して学校生活を送れるように努める。また、授業を教室で受けられない状況の場合、速やかに別室での学習指導や自宅を含めたオンライン授業

を計画・実行する。

加害生徒に対して、いじめに至った背景等をカウンセリング等により聞き取り、本生徒の立ち直りと再発防止に努める。

(3)保護者との連携

被害生徒および加害生徒の保護者に対して、家庭訪問等によりいじめの状況と今後の対応について十分な説明を行い、理解と指導についての協力を得る。

(4)外部機関との連携

必要に応じて、大分中央警察署や大分県心とからだの相談支援センター等の外部機関と連携を取りながら早期解決に向けた最善の方法を講じる。

犯罪行為として取り扱われるべき事案については、学校法人および大分中央警察署等と連携して対処する。また、必要に応じて大分地方方法務局や大分県中央児童相談所と連携を取りながら、いじめの被害者や加害者への適切な対応について教示を得る。

7. 重大事態への対処

(1)重大事態とは

重大事態とは、『いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認め』」事態及び『いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認める』」事態と定義されている。

いじめ防止対策推進法第28条第1項は重大事態を、いじめにより重大被害が発生した『疑いがある』事態と定義している。したがって、いじめの実行行為と重大被害の発生との間に因果関係が存在することが疑われれば、因果関係の存在が明白でなくとも、この要件が満たされることになり、さらに、そもそもいじめの発生が疑いすぎなくとも、いじめの発生が疑われ、かつ、いじめにより重大被害が発生したと疑われるときは、この要件が満たされることになる。

なお、重大被害の発生は、学校にとって明白でなければならず、発生の疑いがあるというだけでは足りない点に注意を要する。(以上、いじめ防止対策推進法第28条第1項より)

(重大事態)

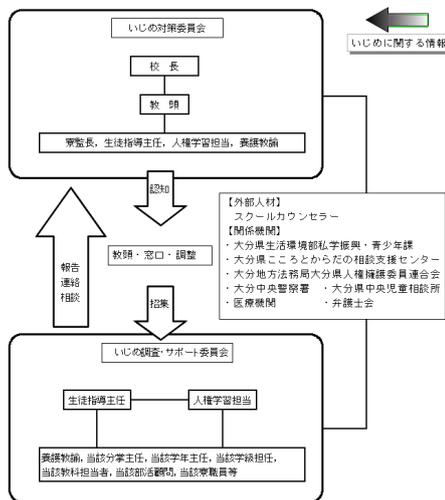
- 生徒が自殺を企画した疑いがある場合
 - 身体に重大な障害を負った疑いがある場合
 - 精神性の疾患を発症した疑いがある場合
 - 金品等に重大な被害を被った疑いがある場合
 - 余儀なく年間の欠席が30日程度以上になった疑いがある場合
 - 連続した欠席の場合は、その疑いがある場合は状況により判断する
 - 生徒や保護者から、いじめられて重大な事態に至ったという申し立てがあった場合
- (2)対応ならびに関係機関への報告

重大事態が発生した旨を、学校法人および大分県生活環境部私学振興・青少年課を通じて知事に速やかに報告する。その後、学校が調査の主体となる場合は、全学危機管理委員会が緊急対策本部を設置し、実行委員会タスクフォースがいじめ調査・サポート委員会を召集し、当該重大事態に応じて適切な専門家を加えて調査を実施する。そして、いじめを受けた生徒、保護者及び関係した生徒の心のケアに努めるとともに再発防止に努める。

8. 学校の基本方針の評価等

いじめ対策委員会を中心として、全教職員により学校のいじめ防止基本方針を定期的に評価し、必要に応じて見直しを図る。また、保護者対象の学校評価アンケートの項目に、いじめ問題等の基本方針について評価する項目を加え、学校の取組みを検証する。

【資料1】 奇田中学校・高等学校 いじめ問題対応組織図



【チェックシート1】

1 いじめられている生徒のサイン

いじめられている生徒は自分から言い出せないことが多い。多くの教員が目で多くの場面で見逃し、小さなサインを見逃さないことが大切である。

場面	サイン
登校時 朝のS・H・R	<input type="checkbox"/> 遅刻・欠席が増え、理由を明確に言わない <input type="checkbox"/> 教員と視線を合わせず、うつむいている <input type="checkbox"/> 体調不良を訴える <input type="checkbox"/> 提出物を忘れたり、期限に遅れる <input type="checkbox"/> 担任が教室に入室後、遅れて入室してくる
授業中	<input type="checkbox"/> 保護室・トイレに行くようになる <input type="checkbox"/> 教材等の忘れ物が目立つ <input type="checkbox"/> 机廻りが散乱している <input type="checkbox"/> 決められた座席と異なる席に書いている <input type="checkbox"/> 教科書・ノートに汚れがある <input type="checkbox"/> 交際相手が出る
休み時間等	<input type="checkbox"/> 弁当にいたずらされる <input type="checkbox"/> 直置きを教室の自分の席で食べない <input type="checkbox"/> 用のない場所にいることが多い <input type="checkbox"/> ふざけ合っているが表情がさえない <input type="checkbox"/> 衣服が汚れている <input type="checkbox"/> 一人で構えている
放課後等	<input type="checkbox"/> 遅くて下校する。または、用もないのに学校に残っている <input type="checkbox"/> 持ち物がなくなったり、持ち物にいたずらされる <input type="checkbox"/> 一人で部活動の準備、片付けをしている

2 いじめている生徒のサイン

いじめている生徒がいることに気付いたら、積極的に生徒の中に入り、コミュニケーションを確りし、状況を把握する。

サイン
<input type="checkbox"/> 教室等で仲間同士で集まり、ひそひそ話をしている <input type="checkbox"/> ある生徒にだけ、周囲が異様に気を遣っている <input type="checkbox"/> 教員が近づくと、不自然に分散したりする <input type="checkbox"/> 自己中心的な行動が目立ち、ボスの存在の生徒がいる

2月17日(火)7限目に、オンラインで高3を除く全校生徒を対象に、生徒総会を実施しました。議長となった矢野瑛介さんの進行のもと、第41期生徒会の各委員会において、以下の活動内容や提案事項が後日BLENDの匿名アンケートにより承認されました。

◇執行委員会

【生徒会長】 伊勢戸悠司

【副会長】 平川晃生 山田桃子

【庶務】 上杉咲希 浦部悠

<スローガン>

友翔(ゆうしょう)～友と羽ばたきの向こうへ～

<活動内容>

1. 学園祭関係
→学園祭の改革や企画、運営などを行う
2. ボランティア活動
→ボランティア委員会と協力して、募金活動などを行う
3. 歓迎遠足などの行事の運営・企画
4. 「生徒会活動報告書」の作成
→広報委員会と協力して、各委員会の情報を収集して作成する
5. 月に一度委員会会議を実施
→各委員会と情報共有を積極的に行う

<提案事項>

1. 寒さ対策
→授業中の防寒着、体操服のズボンの許可
2. 購買メニューアンケート
→BLENDでのアンケート
3. 新イベントの提案
→ハロウィンパーティーやギネス記録など
4. 登下校の服装の見直し
→放課後、部活着などの服装で帰れるように交渉する
5. テスト範囲の早期開示
→二週間前に開示する

◇体育委員会

【委員長】 林下直矢

【副委員長】 山崎凜己

<スローガン>

ネクスポ(next sports)

<活動内容>

1. 体育大会の企画・運営
2. クラスマッチの企画・運営
3. 授業用ビブスの洗濯
→夏は1週間に2回、冬は2週間に1回行う
4. 昼休みの体育館開放時の管理
→体育館の備品や用具の片付け、飲食禁止、時間の確認などを行う
5. 体育倉庫の掃除
→月に1回行う
6. 体育用具の整理
→月に1回行う

<提案事項>

1. 体育大会の新競技の提案
2. クラスマッチの競技の見直し
→競技変更、ルールや人数の明確化などを行う
3. 昼休みの体育館開放時の用具の貸し出し
→バドミントンのシャトル・ラケットなどを

貸し出し

4. 体育大会でのグッズ販売

→学園祭のような体育大会Tシャツ等を販売予定

◇美化委員会

【委員長】 小野双葉

【副委員長】 田村環

<スローガン>

清掃好きすぎて滅！～今日美化いいじゃん！～

<活動内容>

1. 火・水・木・金曜のゴミステーションの開放 ※月曜はゴミステーションを開放せず、渡り廊下のゴミ回収を行う
2. 掃除用具の点検・交換・補充
→全掃除道具のチェック表を作り、月に1回委員長と副委員長が放課後に点検、交換、補充をする
3. ゴミ箱の拭きあげ
→各学期の最後の週に、学年ごとに各クラスのゴミ箱を掃除する
4. 学園祭片付け日のゴミの分別
→効率化を図るため、生活委員と合同で実施する

<提案事項>

1. 分別ポスターの作成
→学校でよく出るゴミの分別ポスターと17アイスのゴミの分別方法をわかりやすくまとめたポスターを作り、各教室に掲示する。
2. 17アイスのゴミ箱の管理の徹底
→17アイスのゴミ箱の状態を抜き打ちでチェックする。
3. ゴミの分別の徹底
→ゴミの分別がしっかりできていないクラスに注意書きの紙を渡す。美化委員がゴミの分別を呼びかける。
4. ゴミステーションの整頓
→下級生にも使いやすいように整理して、利用方法をわかりやすくする。

◇広報委員会

【委員長】 岡本妃菜

【副委員長】 日名子雄登

<スローガン>

日常を、魅力に

<活動内容>

1. 新聞の発行
→2ヶ月に一度発行する
→内容は学校行事や先生紹介、学校の様子など
→発行形態は紙、BLEND上でのデータ配信の2通り
→体育大会、学園祭、クラスマッチの時期などに臨時号を発行する
2. 生徒会活動報告書の作成
→各委員会の公約や、活動内容の進捗状況を毎学期末にBLENDにて配信する
3. Instagramの運営
→学校行事や普段の学校生活の様子をInstagra

mを通じて発信する

4. 各クラスに紙の新聞配布

→これに伴い、新聞掲載用の厚紙を配布する
→クラスの広報委員がクラスの新聞を管理する
→紙で配布することで新聞を目にする回数を増やす

<提案事項>

1. 新聞作成の魅力向上にむけた取り組み
→4コマ漫画などを掲載し、多くの生徒が読みたくなる新聞作成をする
2. 部活動紹介について
→ポスターや動画を作成し、各部活動の活動内容や魅力を紹介する

◇図書委員会

【委員長】 小野日央莉

【副委員長】 Rothman Arianna

<スローガン>

となりに本のある毎日を

<活動内容>

1. 図書室の管理
→各クラスの担当曜日を決めて、当番表を配布し、昼休みに図書室に来てもらう。来ない場合は報告書を担任の先生に渡し、もしくはクラスの連絡ボックスに入れる。
2. 要望のある本の購入
→図書室内にある用紙に読みたい本の名前を書き、箱に入れてもらう。要望のあった本は購入を検討する。
3. 「岩田生の主張」の募集・運営
→学園祭「岩田生の主張」出場者の募集、発表の練習、参考資料の紹介をする。
4. 本に関するイベントの開催
→図書委員と希望者による「ビブリオバトル」などのイベントを開催する。

<提案事項>

1. Instagramの投稿
→instagramで新着図書やおすすめの本の紹介など、本に関する情報を配信する。
2. 三号館二階廊下の本の展示
→廊下を通る時に本を手にとれるように読みやすい本や話題の本をを展示する。
3. ポスター、POPの作成
→本の魅力を紹介するポスターやPOPを作成する。

◇文化ICT委員会

【委員長】 森ゆめい
【副委員長】 仲野老星

<スローガン>

～挑戦が人を進化させる

<活動内容>

生け花教室

- 季節行事ごとに開催（約2ヶ月に一回）
- 2回参加で御免状を申請できる（年度をまたいでも構わない）
- 伝統文化を伝える人や企業にお願いして、講習会を開催する

2. 文化的活動

→芸術鑑賞会での運営を補助する

3. 講習会の開催

→伝統文化を伝える人や企業にお願いして、講習会を開催する

<提案事項>

1. 茶道教室の開催

→生け花以外の日本文化を体験してもらう教室。

2. 学校紹介のリアル作成

→Instagramを活用して多くの魅力を伝えていく。

3. フォトコンテストの開催

→文化ICT委員会が決めたテーマに沿って生徒に写真を応募してもらう。

◇保健委員会

【委員長】 富谷知亜紀
【副委員長】 松尾春桜

<スローガン>

3K 一風邪なし・怪我なし・健康に一

<活動内容>

1. 病気の予防

- ①掲示物作成
- ②消毒液、次亜塩素酸、石鹼液補充
- ③手洗いうがいの呼びかけ
- ④健康観察の呼びかけ

2. 冷水機の掃除

3. 各イベントや身体測定の補助

<提案事項>

1. 救急講習の企画、実施

2. 講演会の企画、実施

→献血、心の健康を守る

3. 学園祭での保健ブース設置

→身長・体重測定、血圧測定など

◇ボランティア委員会

【委員長】 原亮慶
【副委員長】 三田村勇之介

<スローガン>

千里の道も一歩から ～始めよう、ボランティア～

<活動内容>

1. ペットボトルキャップ・コンタクトレンズの回収、呼びかけ

→ペットボトルキャップ・コンタクトレンズを集める。回収ボックスの配置、個数確認（1号館・3号館・寮に1つずつ設置）

2. 募金活動の実施

→UNICEFの「アフリカへの募金活動」（春）への参加
→ウクライナ支援募金、歳末助け合い募金
その他必要時に募金活動を行う予定

3. 同窓会地域清掃への参加

→各クラスの美化委員・ボランティア委員は同窓会地域清掃に参加する

4. ボランティア活動に参加しやすい環境づくり

→岩田生にボランティアを知ってもらうために、BLENDで広報や活動報告を行う

<提案事項>

1. 災害発生時の物資寄付

→災害発生時に従来の募金活動に加え物資寄付の活動を行う

→被災地で必要とされている物資等をBLENDで配信を行い、委員会にて集め、被災地へ送る

2. 制服のリユース

→卒業生や現役生達に使わなくなったりサイズが合わなくなった制服を寄付してもらい、現役生達に再利用してもらう

→回収、開催時期はまだ未定だが、BLENDで保護者アンケートを実施し希望が多かった時期に開催予定

→詳細は後日BLENDで配信

◇生活委員会

【委員長】 小野日向
【副委員長】 矢野義博

<スローガン>

IWATAにピース。

～全ての岩田生に、健康と安全と幸せを～

<活動内容>

1. 自転車点検、ツーロック点検

→学期に1回自転車点検を行う。抜き打ちで自転車のツーロック点検をする。

2. 落とし物新聞の作成

→2ヶ月に1回、落とし物新聞を作成しブレンド配信、教室掲示、校内提示を行う

3. 傘の貸し出し

→月に1回生活委員が見回り、本数を確認・整備する

4. セブンティーンアイス自販機

→アイスのゴミの捨て方などについて、注意喚起をする

5. 学園祭中の全校一斉片付け時のゴミの分別

→美化委員と合同で、一斉片付け時ゴミステーションにてゴミの分別を行う

<提案事項>

1. 落とし物クラスマッチ

→2ヶ月に1回、1～5年生を対象に1週間の忘れ物の少なさを競う。チェックシートを配布し、結果をブレンドで配信する。

2. 間食の規模拡大

→2、3限間に加え3、4限間にも間食を実施する。食べて良いものの中に、ゼリーやパン、菓子類を追加する。

3. セブンティーンアイス自販機の人気投票

→1ヶ月に1回セブンティーンアイスのアイスの人気投票を行い、人気アイスランキングを配信、掲示する。

4. 挨拶啓発ポスターの作成、掲示

→校内での挨拶を啓発するポスターの作成、掲示を行う。



～APU講座 後期プレゼン大会～

APU・立命館コース主任 川元 威彦

1/28(水)に岩田学園にて行われたAPU講座後期プレゼン発表では、4年4組と5年4組の生徒が、前期での経験を活かしながら新たなテーマに基づいてグループごとに発表を行いました。後期のテーマは、4年4組は「食料問題を各国の特徴を活かして解決しよう」、5年4組は「SDGs X ～次世代に求められる開発目標とは～」でした。また、今回は6年4組の生徒も観覧として参加し、最上級生ならではの鋭い視点での質疑もみられ、発表者もチームとして一生懸命に思考を巡らせながら応答していました。

APUから来ていただいたブラックウェル先生からは、発表ごとに3つのポイントに絞って分かりやすい英語で講評していただき、より伝わりやすい発表にするための具体的なアドバイスを数多くいただきました。最後になりましたが、この一年間、日々の授業から発表に至るまで、細部にわたってご指導いただいたSAの皆様には大変感謝申し上げます。

1/28(水)に実施した後期プレゼン発表の結果です。

APU講座Ⅰ(4-4)

第1位 グループE 「もったいない！！トマトの廃棄量を減らすためには」

メンバー：田村 奥平 此本 川野 姜

第2位 グループA 「選ぶ勇気と捨てる覚悟」

メンバー：宮上 宮嶋 岩尾 有田 後藤 金子

第3位 グループC 「今日を生きる ～インドとオーストラリアの食糧問題～」

メンバー：高松 石坂 廣道 矢野 永松 朝倉

APU講座Ⅱ(5-4)

第1位 グループA 「Embrace Every Gender」

メンバー：雨宮 岩本 アンビン 眞田 中井

～「中3、4-4子ども未来コーチング」特別授業～ 中3特活担当 首藤 麻琴

「自分の人生を喜び、生きることもや大人を増やす」をテーマに、日々実践と研究を重ねておられる株式会社mother ship代表・水田結先生をお招きし、中学3年生および4年4組を対象に『子ども未来コーチング』の授業を実施しました。今回のお話を通して、「自分を大切にするとはどういうことか」「自分らしく生きるとはどうすることか」など、普段は立ち止まって考えることの少ない、しかしとても大切な問いについて深く考える機会となりました。“過去”と“未来”を砂時計に例えて学ぶ内容は非常に分かりやすく、今を生きる私たちにとって強いリアリティを感じられるものでした。また、この世に生まれるということは、二人の人生が重なり合い、命が紡がれてきた結果であることを学びました。自分自身の大切さだけでなく、周りにいる仲間や家族の存在の尊さについても、改めて感じる時間となりました。水田 結先生、大変貴重なお話をありがとうございました。

《生徒の感想》

○自分じゃなくて他の人のためについて考えることが多いのですが、世界に1人しか居ないって当たり前だけどすごく大切なことに気づけたなって思いました。

○将来の自分を想像することが楽しかったです。

○誰かが支えてくれる中で自分たちは生活できていることを再認識できた。

○自分をあんなに小さい時から育ててくれている親に感謝しようと思ったし、今生きている時間を大切にしようと思います。

○自分に自信がなかったけど、今は少しか「自分ならできるかも」と思えます。まだ不安はあるけど、前よりも未来のことを考えるのが怖くなりました。

○私もよく人と比べることがあり不安になることがあります。先生がおっしゃったように自分に質問をして自分だけの答えを見つけて自分を好きになれたらいいなと思いました。

～39回生APUコース修学旅行を終えて～

5-4担任 加藤 司

2/3(火)～2/10(火)の8日間、39回生APUコース修学旅行としてマレーシアへ赴きました。

1日目、寒い中、早朝に日本を立ち、シンガポール経由でマレーシアのクアラルンプールへ。ほぼ移動に時間を使った一日でした。2日目、現地のガイドさんに導かれながら、クアラルンプール観光で多種多様な宗教施設やランドマーク等を巡りました。3日目、クアラルンプールの市場を見学した後はマレー鉄道に乗り、(マレーシアを感じる)バス移動を経て、ファームステイ先へ。ファームステイ先では伝統的な軽食やバティック制作等の体験をしました。4日目、現地の学校の(熱烈な)歓迎を受けつつ、ホストファミリーとの顔合わせを行いました。5日目、各ホストファミリーのところでホームステイ。6日目、ホストファミリーと(涙の)お別れをした後にペナン島へ移動し、現地の観光。ここでも多民族国家の一面を感じるような、多彩な宗教関連施設を見学しました。7日目、マレーシアでの最後の一日でした。ペナン島の中心地域であるジョージタウン

を観光した後に班ごとに分かれてフィールドワークを行いました。その後、ペナン島からシンガポールへ飛行機で移動。8日目、前日から日をまたいでシンガポールから日本へ帰国。途中、体調不良者が数名出ましたが、大きな事故や紛失物等無く、無事予定されていた旅程を終えることができました。

同じアジア圏とはいえ、文化や歴史的背景の異なる国での8日間を過ごす生徒らを見ていると、彼らの適応能力・コミュニケーション能力の高さに驚きました。この修学旅行で得た経験は生徒の皆さんにとって忘れがたく、また、生涯どこかで必ず活かされるものであると信じてやみません。

最後になりましたが、今回の修学旅行の実施にあたって大変なご尽力いただいた現地コーディネーター・ホストファミリーおよび現地の学校関係者・JTBスタッフ等全ての方々、そして何より、お子さまを快く送り出していただいた保護者の皆様に心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

～APU・立命館コース卒業論文発表会～

英語科 平川 絵里子

2月25日(水)、26(木)、本校にて「2025年度APU立命館コース卒業論文発表会」が開催されました。6年4組の生徒は、本コースでの学びの集大成である卒業論文完成に向け、ベルフラワー先生指導のもと、1年かけて入念に準備を整えてきました。1学期は英語論文で広く使われるAPAスタイルにおける引用の仕方や盗作などについて学び、2学期以降は個々の興味関心に基づいて決定したテーマに沿って、段階を追って論文を完成させていきました。高校生ならではの疑問を深掘りし、大学以降の学びにつながる探究活動をする中で、論文も発表も英語で行えたことは、岩田では伝統となっていますが、全国の高校3年生をみたとき、決して当たり前のことではありません。学んだ英語をツールとして使っていく取り組みは、本コースならではのものであり、確かな自信となったことでしょう。

APUよりご来校いただいたブラックウェル ジェームズ先生からは、ひとりひとりの発表に対して、分かりやすい英語で講評していただき、良い点だけでなく、より伝わりやすい発表にするための具体的なアドバイスもいただきました。6年4組の皆さんは、今回の経験を今後の学びの土台として、更にステップアップしていきましょう。5年4組の皆さんは、来年は自分たちの番となります。1年後に向けて着実に準備を進め、これまで身に付けた力を存分に発揮してほしいと思います。

以下、結果です。

【ベスト論文賞】 都甲すみれ

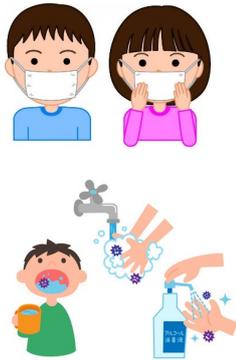
【特別賞】 荒木亜文 梅木颯太 佐藤瑞紀 村上希法
室ほのか 山本華加 (あいうえお順)



～保健室より～ 養護教諭 野村 めぐみ

1～2月インフルエンザ

	罹患者数
1年	28名
2年	31名
3年	19名
4年	23名
5年	19名
6年	3名



2月は、インフルエンザBが大流行し、学年閉鎖・学級閉鎖となるケースが多発しました。岩田学園では、未だに流行が続いています。1カ月の間に2度インフルエンザBに罹患したお子さんもいました。油断せず、手洗い・うがい・マスクなど感染防止へのご協力をお願い致します。

～部活動結果報告～

【女子サッカー部】

2/15(日) 湯の華カップ @実相寺サッカー場
女子サッカー部の貴重な試合経験を積みに、高校やクラブだけでなく社会人の女子チームも参加する大会に出場しました。8人制とはいえ普段より遙かに広いグラウンドでの競り合いに弾かれる場面もありましたが、練習の成果を発揮して声をかけあい走り回る中で待望の初勝利を挙げることができました。コーチ・顧問も駆り出されての総力戦(助っ人男子は2名まで可)で、早春の一日を楽しく有意義に過ごすことができました。
(顧問 立川 英季)

【インターアクトクラブ】

卒業を控えた高校3年生に修了証書が授与されました。大分キャピタルロータリークラブの方からご挨拶を頂戴した後、卒業生一人ずつがこれまでの振り返りと今後に向けてのスピーチをしました。岩田インターアクトクラブ生は卒業しても奉仕の精神と人との出会いをこれからも大切にしていきます。
(顧問 河野 智治)



3月の行事予定

3/1(日) 岩田高校卒業式	3/17(火) クラスマッチ予備日
3/3(火)～3/6(金) 期末考査	3/20(金) 春分の日 入学者登校日
3/7(土) 転入学考査	3/23(月) 中3卒業式予行
3/9(月) 3・4・5年クラスマッチ	3/24(火) 中学校卒業式・終業式 寮生帰省
3/10(火) 1・2年クラスマッチ	3/25(水)～4/7(火) 春季休業
3/12(木) 答案返却	3/28(土)～3/30(月) 閉校日
国立大後期試験	
3/16(月) 職員会議	



〒870-0936

大分市岩田町1-1-1

学校法人岩田学園

電話 097(558)3007

Fax 097(556)8937

Email iwata@iwata.ed.jp

HP <https://www.iwata.ed.jp>



学校法人 岩田学園

岩田中学校・高等学校

Festina lente ゆっくり急げ



Instagram

